

高騰する授業料

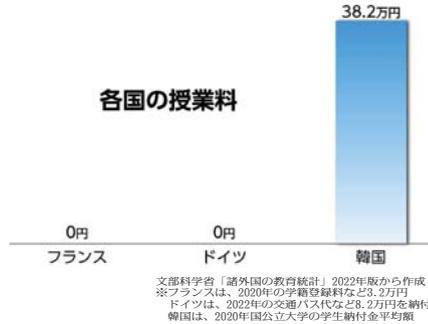
写真は東京大学・赤門前 早稲田大学・正門前



すいよう

日本の学費 高すぎる!

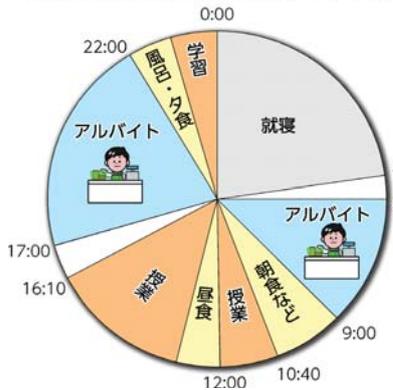
新年度、新たに大学・専門学校への進学を決めた人も多いと思います。新生活に期待で胸を膨らませる一方で、高学費を心配している人も多いのではないのでしょうか。日本の異なる高学費の実態とその背景、解決の方向を考えます。(鈴木平人)



日本は、世界と比較しても異なる高学費です。1977年には1.2万円だった国立大学の学費は、2021年には45倍の53.6万円に。私大も同じ期間に10倍の値上がりです。昔ほどあるのが、学生家族に重い教育費負担を押しつけてきた。自民党政権の教育政策です。1960〜70年代の経済成長とともに大学進学率は上昇し、とくに私立大学で学生数を増やしてきました。一方で政府は、学費は利益を上げる学生が負担すべきかという「受益者負担主義」の立場から学費を値上げする一方、大学などの教育予算を抑制。大学・専門学校に対する日本の公的支援は、対GDP(国内総生産)で比べてわずか0.5%で、OECD(経済協力開発機構)加盟38カ国で最下位です。

週6でバイト 自分の時間ない

新山さんのある1日のスケジュール



新山健太さん (仮名・20) 中国地方

私立大学でスポーツ科学を学んでいます。現在は、運動の楽しさを伝えたいと思って学んでいます。しかし、学費は年間90万円。生活費は家賃も含めて月7万円ほど。学費と生活費は月5万円の奨学金金目に入るのではありません。バイトは、コロンビニエ週6回働いて月10万円ほどです。平日は早朝のシフトに入ります。平日も8〜9時間ずいぶん大変だという人もいます。政府は、学生への支援を厚手厚手してほしい。時間がないと感じます。

予備校含め930万円、家計ひっ迫

息子が嫌がらない。が、この春から大学2年生です。私立理系に通い、学費は4年間680万円。入学金や教材費、年間予備校に通っている経費も含めて卒業までに800万円かかります。5校受け入れた試験の費用も30万円かかりました。共働きですが家計はギリギリです。親が全額負担できないので、本人は貸付奨学金を借りて、週2回の新聞配達もしています。他のバイトより時給がよいので選んだようです。同世代の仲間とて、学費などは本人の成長の糧にならなると感じています。学業とバイトの両立ですが、学費を半額は無償にして、学費補助を保障することが必要だと感じます。



岡田尚子さん(47) 東京都稲城市

予算増やし負担減を

大学などの学費無償化へ

授業料ゼロ	2兆6000億円
入学金ゼロ	2200億円
本格的な給付奨学金	5000億円
軍事費増	3兆3200億円

5兆円分あれば...

共産党の提案

日本共産党は、教育予算を日本の経済力にふさわしく抜本拡充することを求めています。具体的には、▽大学・専門学校などの授業料をすまやかに半額にし、無償化をめざす▽入学金は廃止してゼロに

する▽「自宅4万円、自宅外8万円」の給付奨学金を75万人(奨学金利用者の半数)が利用できる制度をつくり拡充する一などを掲げています。政府は、現在5兆円超の軍事費を11兆円に増やす大軍拡を狙っていますが、授業料ゼロ、入学金廃止、給付奨学金の抜本拡充は3兆3200億円あれば実現可能です。

この長年にわたる国の負担を、た修学支援新制度を創設し、したが、全学生のわずか1割にとまっています。岸田政権が対策拡大を表明しましたが、多世代や理工農系など一部の中間所得層のみで、学費値上げには指一本触れようとしません。「受益者負担主義」を続けるのか、大卒などへの教育予算を抜本拡充し、学生・保護者の学費負担を軽減するのかが問われています。